

群馬県建築鉄骨品質適正化協議会

「鉄骨品質適正化講習会」を開催

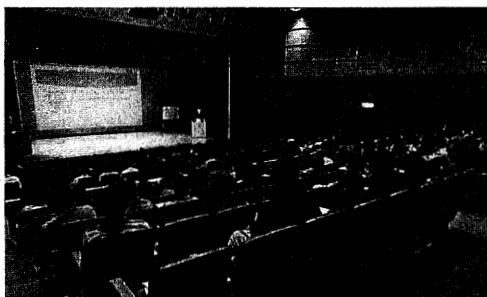
めつき割れ、補修など学ぶ
群馬県建築鉄骨品質適正化協議会（会長＝高橋康夫）は11月25日、前橋市の群馬県公社総合ビルで「鉄骨品質適正化講習会」を開催した。

同協議会は県内の鉄構組合や行政、建築士会、建設業協会、建築構造技術者協会など建設関連団体の関係者で組織し、年1回、鉄骨品質の確保を目的に講習会を開催している。当日は同協議会の会員である群馬県鐵

構業協同組合の組合員と賛助会員、行政関係者、各団体に所属する設計者、ゼネコンなどの技術者ら約130人が参加した。

講習会は2部構成で進行し、1部は「建築鉄骨造における溶融亜鉛メッキについて」、「メック割れとその対策」と題して日本溶融亜鉛鍍金協会の渡会竹志氏（横浜ガルバー顧問）が講演。鉄骨造におけるめつき割れの事例とメカニズムを紹介した上で、部材の成形や形状、めつき浸漬速度などが及ぼす影響を豊富な実験データをもとに解説した。

2部は「鉄骨造建築物の被災後補修」をテーマに東京科学大学の吉敷祥一教授が講演。16年に発生した熊本地震の現地調査を踏まえ、被災部位とその補修、修復にかかる



約130人が参加した講習会

約130人が参加した講習会
2部は「鉄骨造建築物の被災後補修」をテーマに東京科学大学の吉敷祥一教授が講演。16年に発生した熊本地震の現地調査を踏まえ、被災部位とその補修、修復にかかる

コストや工期を整理し、実際の補修事例と補修後の性能を紹介した。また、構造的には問題ないものの壁間に仕切りなどの非構造部材の損傷で建て替えた事例も紹介。被災者の心理面を考慮

する必要がある点を指摘し、「非構造部材の被害を抑えることが重要」と強調した。
講習会後、同協議会の大竹良明副会長（群馬県鐵構業協組理事長）は講演者に謝辞を述べ、「この組織は行政から設計者、製作者の各団体が参加しており、全国でもあまり例がない。県

内の安心・安全を守り、より良い建物を提供するため、この会の灯を消すことなく次代につなげていきたい。引き続きご協力を願いしたい」と述べた。

群馬県建築鉄骨品質適正化協議会の講習会

開催日：2025年11月25日

会場：群馬県故障総合ビル 大ホール

(鋼構造ジャーナル 2025年12月8日付)